安住寺合掌会主催　敬老会開催

禅の心

第184号
令和5年　秋号
発行（年4回）
安住寺
臨済宗南禅寺派
〒873-0002
杵築市大字南杵築379
Tel　0978-62-2680
Fax　0978-62-3980
http://www.anjyuji.net
編集責任　矢野明玄

【月例行事】

★座禅会★
午前6時半～
10月14日（土）
10月28日（土）
11月12日（日）
11月25日（土）
12月9日（土）

★写経会★
午前10時～
10月20日（金）
11月21日（火）
12月15日（金）

令和5年度　長寿番付表　安住寺敬老場所

東	年	住所	蒙御免	西	年	住所
田代ハツコ	105	城山	横綱	阿部ヤエ子	103	弓町
古田初子	102	西大内山	大関	阿部睦子	100	西大内山
井上恵美子	99	東大内山	同	田辺コウ	98	広島市
阿部ノブ子	98	西下司	関脇	上美枝子	98	座間市
須賀悦子	97	杉山	同	須賀ミヤ	97	東下司
岩口花子	96	守末	同	原ヨシ子	96	煙硝倉
二宮しん	96	猪尾	小結	麻生義子	96	藤の川
藤原ヒサ子	96	西大内山	同	川上浩	95	宗近
麻生恵美子	95	中平	同	八坂周子	95	杉山
諸冨サヨ	94	別府市	前頭1	渡邉チカ子	95	西下司
河地辰馬	94	新興	前頭2	廣石フサエ	94	宗近
秦エミ子	94	南台	前頭3	藤原常一	94	西大内山
上園ナミ子	93	東大内山	前頭4	藤原和子	93	西大内山
麻生トキ	93	藤の川	前頭5	藤原サト	93	西大内山
土谷岩治	93	天満	前頭6	木付幸子	93	大分市
山本治	93	大分市	前頭7	下原正徳	93	東下司
藤原定喜	93	行橋市	前頭8	大石勝子	93	魚町
綾部昇吉	93	谷町	前頭9	阿部榮藏	93	大分市
廣石須美	93	東下司	前頭10	是久義則	93	杉山
渡邉健治	93	福岡市	前頭11	矢野エミ	93	中平
森永政子	93	北浜	前頭12	川上シゲ子	93	宗近
梶取叶	92	別府市	十両1	阿部久美子	92	大分市
加藤兵馬	92	東下司	十両2	小深田智加子	92	広小路
綾部葉子	92	魚町	十両3	須賀豊子	92	杉山
藤原洋子	92	西大内山	十両4	中野カズ子	92	西上
渡邉修	91	東下司	十両5	中村廸子	91	北九州市
平野睦	91	南台	十両6	工藤敦子	91	別府市
阿部佐代子	91	桃山	十両7	厚田幸子	91	本町
藤原郁代	91	行橋市	十両8	麻生頼	91	中尾

～ご長寿おめでとうございます～

写真上　清末玲子会長のご挨拶

写真下　阿部恒次様による余興

敬老会ご報告

九月二十日、四年ぶりに合掌会（清末玲子会長）による敬老会が開催されました。

大勢での会食がまだまだ気になるところで、執行部の皆様を中心に地区役員様にもご協力いただき、宴席を設けずに敬老者の皆様に、楽しくリフレッシュできる会になるようにと工夫を凝らしてくださいました。

ワクワクタイムでは、市内南台の阿部恒次様による、リフレッシュ体操、じゃんけんゲームなど体と脳を使いながら、参加者皆さんと楽しい時間を過ごすことが出来ました。来年は宴席もできるといいですね。

☆敬老の日豆知識☆

一九四七年九月十五日、兵庫県多可郡野間谷村（現在の多可町八千代区）で、村長の門脇政夫氏が「敬老の日」を始めたそうで、この日は「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」という趣旨から「敬老会」として開催され、門脇村長は「養老の滝」伝説をヒントにし、戦争で子供を亡くした親たちに報い、知識や人生経験を伝えるためにこの会を開催しました。

伝説自体は、千三百年前の美濃の国で、貧しい樵の源丞内が父親のために泉からお酒を見つけるという話で、最終的に元正天皇に称賛され、泉は「養老の滝」と名付けられました。

日々之好日

◆八月三日（木）当山山門施食会。本年は午前十一時より一回の法要。法要後のお斎は精進お弁当をお配りし無事に終えました。六十数名のご参加を頂きました。◆八月四日五日、寺町養徳寺様・本庄千光寺様の施食会法要に出頭。◆八月七日より棚経参りに伺いました。年々暑さが厳しくなりますが、閑栖和尚・小僧三名・弟・拙僧と六人態勢でお参りさせていただきました。台風の接近もありましたが無事に終えることが出来ました。◆八月三十日、合掌会執行部会・九月六日全役員会を開催し敬老会準備に入りました。◆九月二十日・敬老会開催◆ようやく彼岸も過ぎ涼しい秋を迎えましたが、皆様には充実した実りの秋をお過ごしいただければと思います。

明玄合掌

≪おれいと・感謝≫

7月8月は、護持会費・墓地管理料の納入をお願いいたしました。市内の皆様には地区御世話人様を通じて、地区外市外の皆様には郵便振替にてお納めいただきましたこと、心より感謝お礼申し上げます。また、お盆の供養料などをお送りいただいた方もございました。改めて紙面をもちましてお礼申し上げます。今後ともご法愛賜りますようお願い申し上げます。

達磨大師の御命日に因んで
〜十月五日は達磨忌〜

下の絵は先日まで城下町資料館で開催されていた【知られざる杵築の画人　廣石碩田】夏季特別展に展示されていた、碩田先生の色紙に画かれた達磨大師である。脇には「無欲一切足」欲が無ければ一切足りるとあります。

さて、十月五日は達磨大師の御命日です。達磨大師の生涯については諸説ありますが、南天竺国王の第三王子として生まれ、般若多羅の法を得て、お釈迦様から数えて第二十八代目の祖師となります。

五世紀後半から六世紀前半にかけて中国で活躍された仏教僧であり、永安元年（五二八）年十月五日に百五十歳で遷化されたといわれている。

その達磨大師が説かれたとされる教えに「二入四行論」の教えがある。

「二入四行」とは、禅仏教の真理に至る方法に二つの立場と、四つの実践が必要であると説く。「二入」は理論にあたる「理入」と、実践にあたる「行入」です。

二つの立場の一つ「理入」は原理的な立場をいい、経典を学び仏法の大意を理解し、すべての生き物は平等な真実を持っているが、妄念によって本質を見失っていることを確認します。そこで妄念を排除し静かな状態を保つことで、自己と他者、凡人と聖人が一体であることを理解します。

もう一つの「行入」は実践的な立場をいい、四つの行「四行」に分かれています。

「四行」の一つ目が「報怨行」で、道を修行しているものに何らかの苦しい運命がきたとき、自業自得の自分のたねまきだから、他人を怨まず、忍耐しなさい、ということです。

二つ目が「随縁行」で、縁にしたがう行で、苦しいことも楽しいことも、自分の過去のたねまきに縁が結びついて生じている結果だから、一喜一憂しないということです。

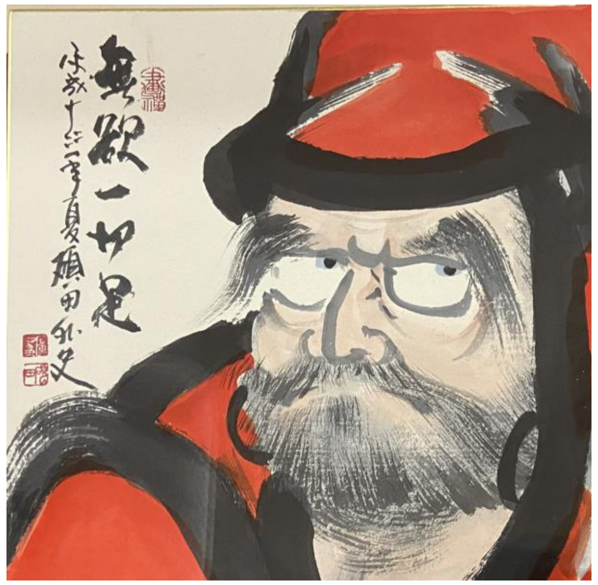
三つ目は「無所求行」で、求める所のない行で、求めることによって苦しむのだから求めるな、ということです。

四つ目は「称法行」です。真理にかなう行いのことで、すべてのものは清浄であるという真理に従い、執着や対立を超えて生きるという教えです。

水上勉所著『禅とは何か』それは達磨から始まった。の中でそれぞれの行を次のように記している。

「報怨行」前世の宿業に報いる実践
「随縁行」因縁に任せる実践
「無所求行」ものを求めない実践
「称法行」あるべきように生きる実践

これらの考え方は、真理に至る禅宗の基盤ですが、人間の心の成長にも活かされる教えではないでしょうか。



人口減少・過疎地期の寺院はこれから・・・

少子高齢化、地方の過疎化の問題は足音を立てて近づいています。寺院運営にも大きく影響を及ぼしています。一つお葬式があれば一軒檀家が減る。地方過疎地の檀家制度で成り立っている寺院にとっては厳しい現実です。

国や地方行政も問題解決に取り組んでいるが、世界は第三次AIブームで、生成AIではチャットGPTやBardが話題になった。生成AIに過疎地の寺院の存続方法を問うと、○地域コミュニティとの連携強化○文化・教育の拠点としての活用○観光資源としての活用○地域への奉仕活動○デジタルプレゼンスの強化○持続可能な運営モデルの模索○若い世代への教育と継承○地域外からの支援の探求など答えが返ってきた。安住寺でも少なからず取り組んではいるが・・・価値観の多様性が広がるなか対応するのは厳しい。

南禅寺開基亀山法皇は「利生の悲願」のことばを残されましたが、今のような社会が来るとは想像されていなかったことと思う。某有名インフルエンサーは、仕事やキャリアを優先し、自分の楽しみな時間を大切にしている子供を持たない人々が亡くなった後、子供を持つことに価値を抱いてきた人が増え、再び人口が増えるといっていましたが、そうだとしても、20年30年と先の話だろう。先祖を大切に、家族を重視してきた伝統的な宗教は、時代の変化とその意味を直視しなければいけない。そんな中でも御縁を大切にしてくださる方、護持にご協力いただく方々に感謝の念を忘れてはいけないと思う次第です。

第3回　お寺で
コンサート

11月5日（日）於：安住寺本堂
10:30開演（10時開場）
※1時間程度　入場無料

コロナ禍の中始まった「お寺でコンサート」も、おかげ様で3回目を迎えることになります。今年もポップスからクラッシックまで楽しめる曲を演奏します。秋のひと時、生演奏で一緒に音楽を楽しみましょう！